

医療

南京都病院

- 就学前 「食べれない」「眠れない」「外に出れない」症状から南京都病院を受診 通常学級に入学 母と一緒に登校 2年生までは母子登校で行っていた。神経発達症診断

サポート

JOYO

- 通級指導教室（学校）からサポートJOYOの来校相談につながる
- 南京都病院にも通院していたので 病院とも連携
- サポートJOYOの来校相談で まみーるーおさんにも来てもらい顔合わせを行い 共通の好きな事を
- 話題にまみーるーおさんに繋がった

学校

- 通級指導教室担当者から学校での様子や対応についての相談がサポートJOYOにあり、
- 関係者会議なども設定

教育

マミールーム

城陽支援学校 地域支援センターサポート JOYOより



京都府



なお、盲・聾・養護学校における先進的な事例を踏まえ、特別支援学校（仮称）に期待されるセンター的機能を例示すれば、以下のとおりである。

- 1.小・中学校等の教員への支援機能
- 2.特別支援教育等に関する相談・情報提供機能
- 3.障害のある幼児児童生徒への指導・支援機能
- 4.福祉、医療、労働などの関係機関等との連絡・調整機能
- 5.小・中学校等の教員に対する研修協力機能
- 6.障害のある幼児児童生徒への施設設備等の提供機能

このうち、小・中学校等の教員への支援機能、特別支援教育等に関する相談・情報提供機能、障害のある幼児児童生徒への指導機能、福祉、医療、労働などの関係機関等との連絡・調整機能については、具体的には以下のような内容が考えられる。

文部科学省 HPより

京都府では、特別支援学校がその専門性を活かし、地域の関係機関等と連携をとりながら、障害のある子ども、その保護者並びに保育所、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校等に対する相談と支援を行っています。

障害のある子どもが地域において豊かに生活ができるようサポートすることにより、自立と社会参加の促進を図ります。

○主な実施事業

専任で2人

地域支援センターの設置	地域の学校等の障害のある子どもへの教育相談等を行うため、地域支援センターを設置します。
地域支援コーディネーター等の指名	教育・福祉・医療・保健・労働等の関係機関や地域の学校との連携をする推進役として、「地域支援センター長」及び「地域支援コーディネーター」を指名します。 学校の実情に応じて「特別支援教育コーディネーター」を指名します。
地域特別支援教育総合推進事業運営協議会の設置	支援地域内における特別支援教育を総合的に推進するため、学校や関係部局・機関等からなる「地域特別支援教育総合推進事業運営協議会」を設置します。
相談支援チーム（巡回相談チーム）の設置	障害のある児童等に対する望ましい教育的対応について、学校等に助言を行うため、関係機関と連携し、医師、心理学の専門家、福祉関係者及び高い専門性を有する教職員等からなる相談支援チームを設置します。
教育相談	相談支援チームを運営・活用しながら、障害のある児童等、その保護者及び学校等に対して電話、来校又は巡回による教育相談を実施しています。
個別の指導計画・個別の教育支援計画作成の支援	地域の学校等の「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」の作成を積極的に支援します。
研修支援等	学校側からの要請に応じて研修講師の派遣、教材・教具の貸し出し、施設設備の提供等、必要な支援を行います。
広報活動	事業実施内容の広報活動に努めます。



教育相談 ご案内

気になること、お悩みのこと、相談してみませんか

子どもの行動が気になる

子どもの特性を知って、手だてを考えたい

研修会をしたいけど、講師をしてもらえないかな

わがまま？甘やかashi？
どうなんだろう



学校に来られない子がいる
どうしたらいいのか…

このまま不登校になるんじゃないかな？



制服に着替えたけど、
家から出られない

友達とうまくいかない

学校に行こうと思っても、
起きられない、お腹が痛くなる

家庭や学校生活のこと、学習活動などで気になることなど、『不登校』にかかわるいろいろな相談に応じます。より良い支援の手段を一緒に考えましょう。

相談形態

電話相談：申し込みの際、概略をお聞きし、ケースにより園・学校に巡回相談を実施します。

来校相談：保護者等・本人への相談を行っています。

巡回相談：相談ケースに応じて、担当の巡回相談員が伺います。

【南京都病院等、医療と連携した相談もできます】

不登校相談

- ・不登校児への関わり方について
- ・不登校未然防止について
- ・保護者との相談
＜子育てのこと・他機関情報提供＞等
- ・本人との相談

発達相談

- ・障害や発達、学び方や捉え方などの相談
- ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」作成への助言
- ・発達検査→発達検査のみの依頼はお受けしません。

研修支援

- ・不登校支援研修会
- ・肥満症等、疾病に関する研修会
- ・校内研修会等への講師派遣

本校各教育部に 関わる相談

- ・慢性疾患・心身症・重度重複児に関すること
- ・医療との連携
- ・知的障害児等の進路などに関すること

◎お申し込み・お問い合わせ方法
まずは、お電話ください。

0774-53-7100 (代表)

城陽支援学校に電話がかかります。お問い合わせの際は、「サポートの地域支援コーディネーターに繋いでください」とお伝えください。

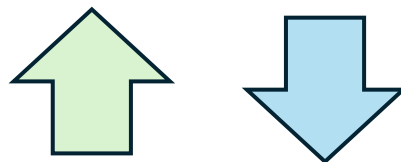
他の地域支援センターの 相談までの流れ

学校

- ・担任
- ・特別支援教育コーディネーター
- ・管理職

地域支援センター
コーディネーター（専任2名）

巡回相談実施
授業見学
↓
ケースによっては
保護者も一緒に相談に
入ることもある。



医療
福祉
行政
関係機関

などなど



サポートJOYOの 相談までの流れ

担任？
教育相談？
管理職？
養護教諭？

保護者
本人

来校相談
地域支援センター
コーディネーター（専任2名）

学校相談

電話メールでの相談
もある

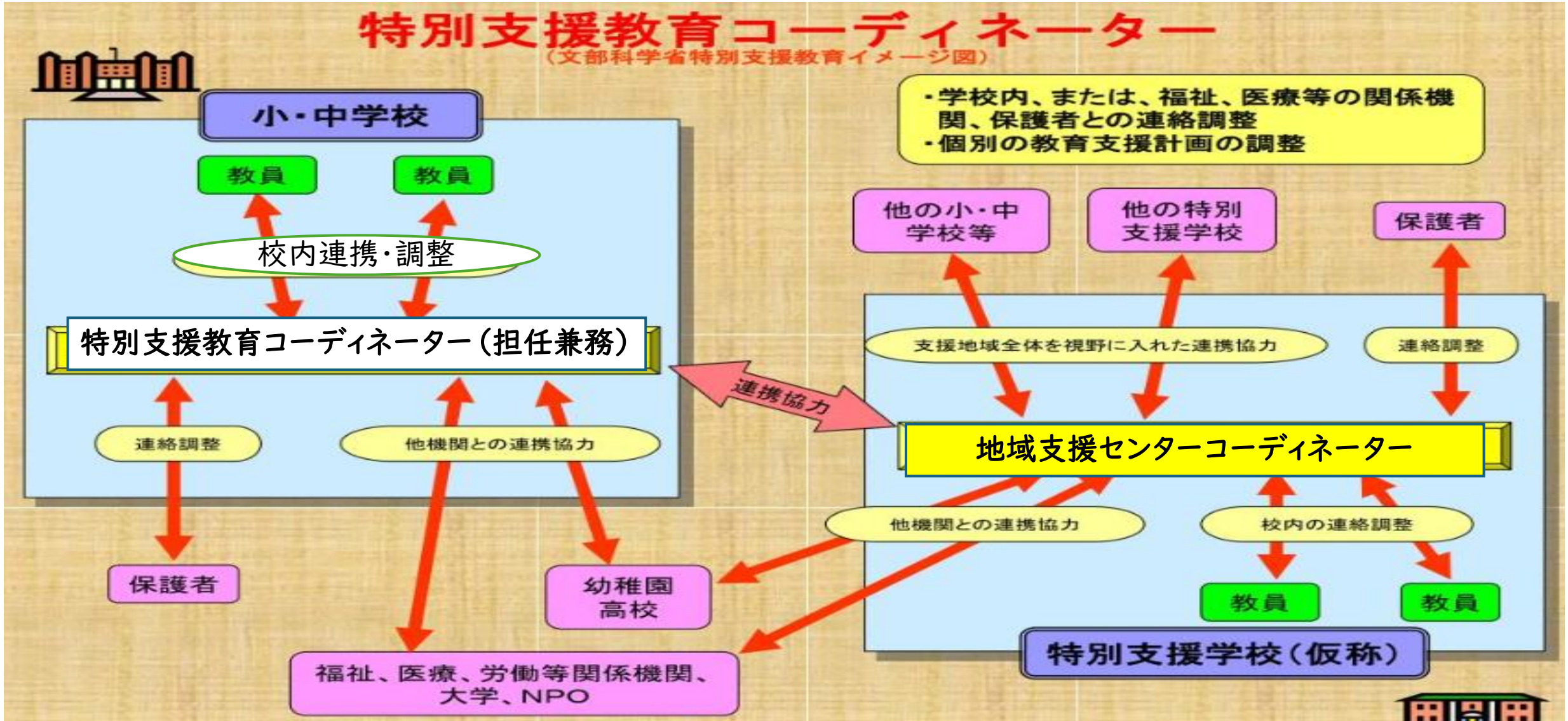
医療
福祉
行政
関係機関

などなど

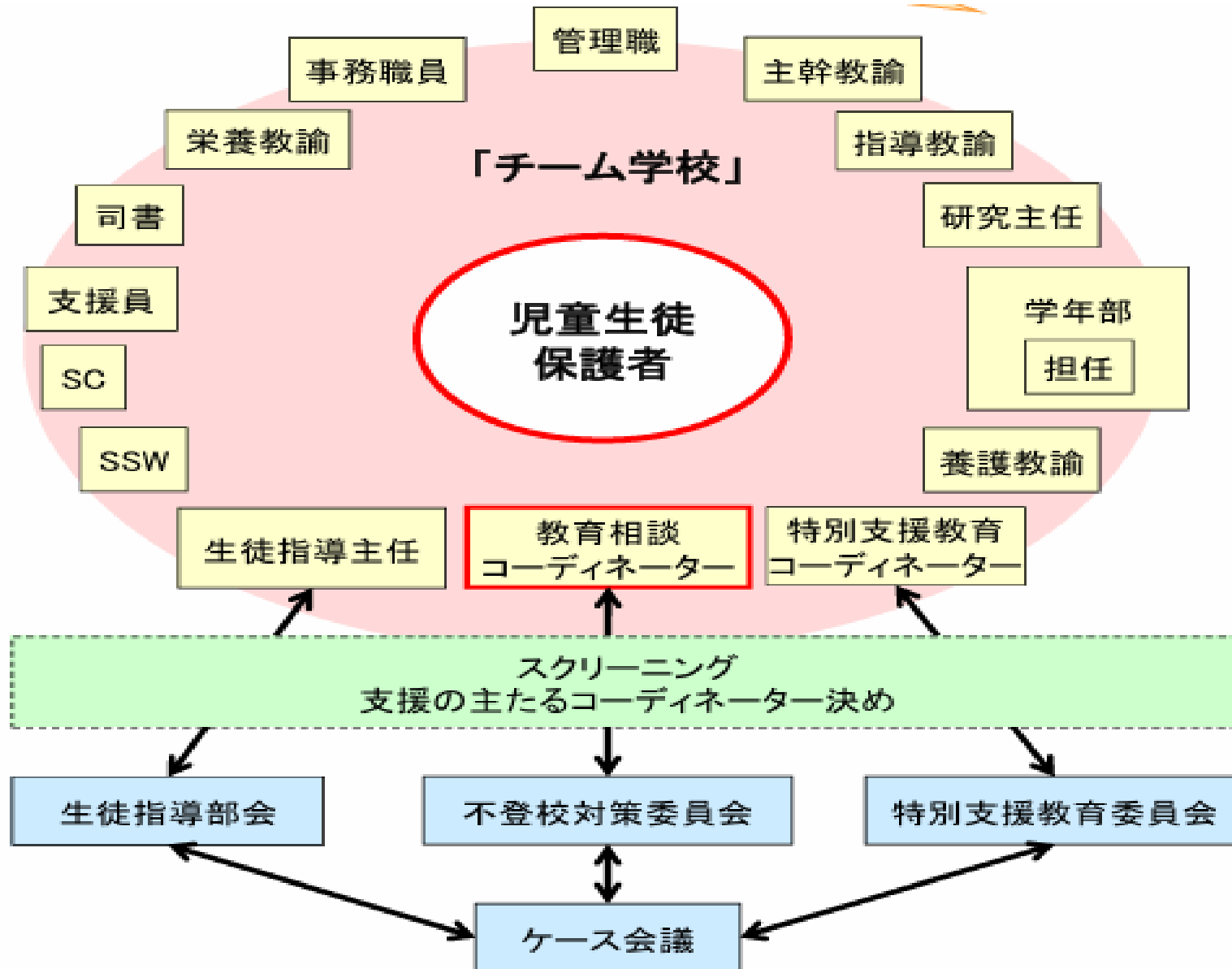
保護者と本人とは
分けて相談

サポートJOYO→学校へ連絡 窓口は？

他の地域支援センターなら →特別支援教育コーディネーター



サポートJOYO→学校へ連絡 窓口は？



不登校については

生徒指導部の中の教育相談部となることが多い。

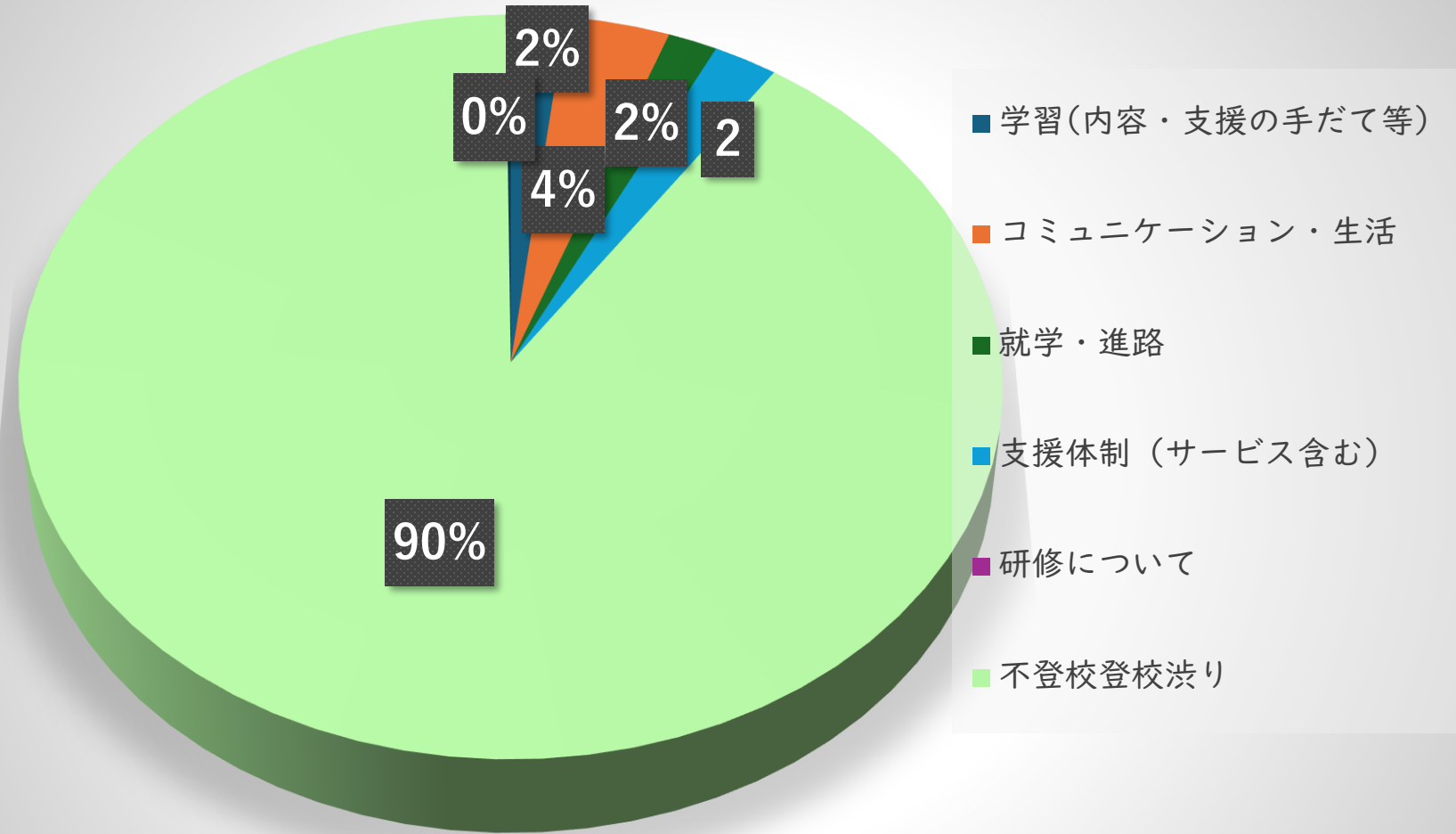
左のような教育相談コーディネーターが設置されているところは少なく

養護教諭の先生が中心になることも多い

特別支援コーディネーターはあっても、不登校となると、特別支援のコーディネーターに繋いでも、教育相談の担当者に回されることがある

学習(内容・支援の手だて等)	11
コミュニケーション・生活	21
就学・進路	10
支援体制(サービス含む)	13
研修について	0
不登校・登校渋り	519
	1

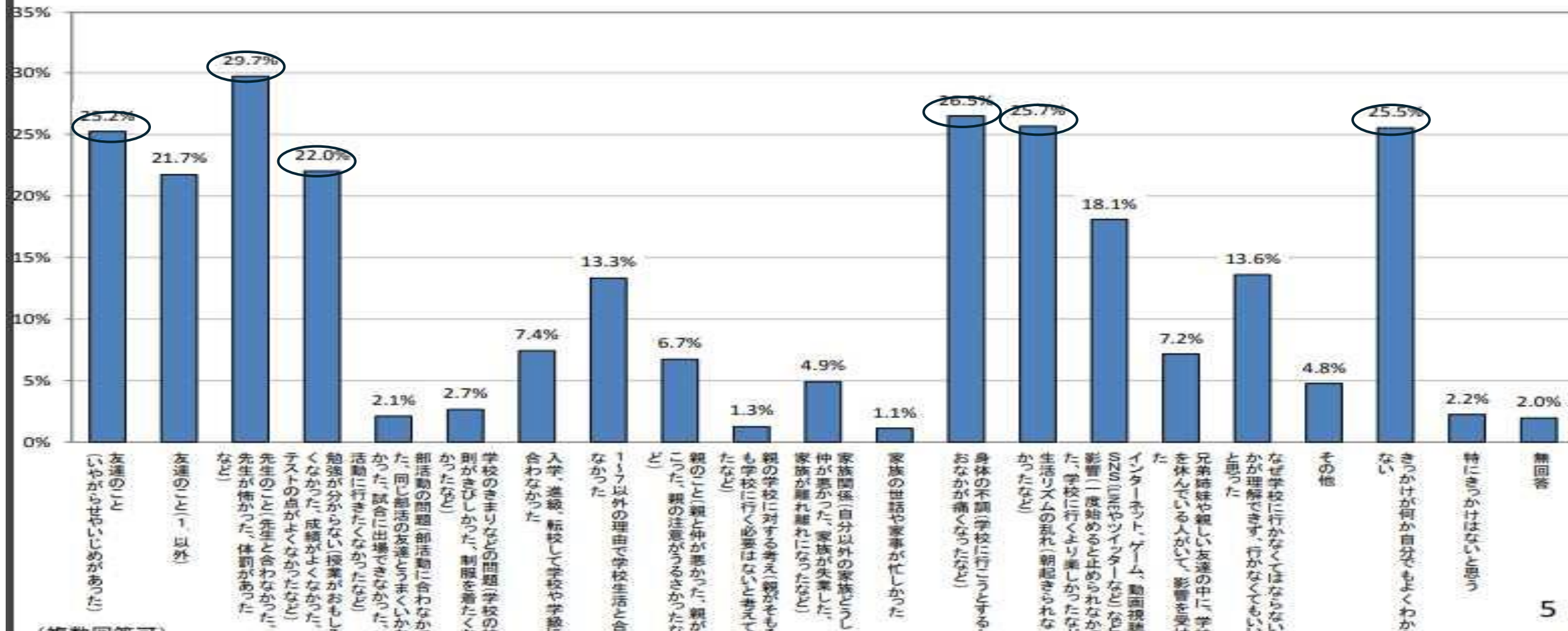
計



最初に行きづらいつ感じ始めたきっかけ①

○「先生のこと(30%)」、「身体の不調(27%)」、「生活リズムの乱れ(26%)」の順で高い割合である。
 ○2割強は、「きっかけが何か自分でもよくわからない」と回答している。

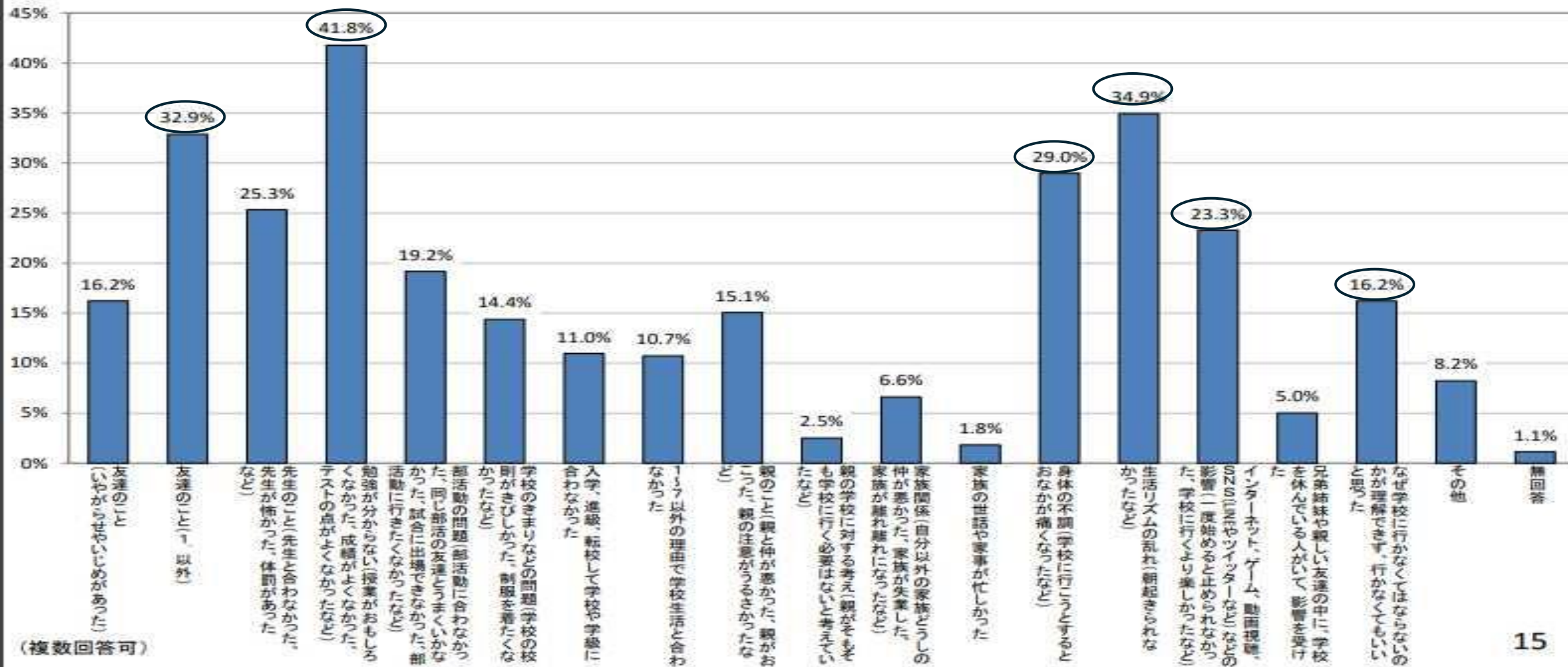
【小学校】



最初のきっかけとは別の学校に行きづらくなる理由②

○最初のきっかけとは別の理由としては、「勉強が分からない（42%）」、「生活リズムの乱れ（35%）」、「友達のこと（1. 以外）（33%）」などが上位にあがっている。

【中学校】



(複数回答可)

そもそも なぜ 学校に 行くの？行けるの？

- 授業が楽しい
- 休み時間が楽しい
- 友達と遊びたい
- 給食が楽しみ
- 先生との関係が良い
- 部活動が楽しい

*昭和平成前期なら家にもすることがないから

これのどれか一つでもあると、
不登校・登校渋りとなっても
回復するときのモチベーションに
なりやすい。

逆に これのどれもないと
なると学校の形に戻るのは難しい

部屋に引きこもり 休みの日も外出したがない お風呂にも入りたがない

病院など
他機関連携！必須

部屋に引きこもり 家族だけなら 夜に近所に出かけられる 家庭訪問嫌がる

家の中では自由に活動しており、放課後友達と遊んだりもできる。担任の先生と会える場合もある

家庭訪問の回数や
連絡の取り方の相談

日中、外出もできて、友達とも遊べる 担任の先生とも会える 習い事は行ける

SC SSW 他相談機関

週に1回とか2回 放課後登校はできる 別室なら数時間学習できる。

何か嫌なことがあったかな？
週のペースはどうか？
家での様子はどうか？
学校が用意できる環境は何か？
などなど（学校介入 ○）

別室や少人数なら学習や活動ができる。たまに1時間程度なら学活などには参加できる。

週明けや、週の半ば休んだりすることが月に3回～4回ある。

注意

*朝の行き渋りがある 学校に来るとそれなりに過ごせている

対人面

- 休み時間に何もすることがない 遊びが楽しいと思えない
→ぼーっとした休憩でも○ 一人で出来ることでも○ 先生の手伝いも○
- 放課後 時間があったら 遊ぼうかと思える 友だちがいない
→なくても良いけど 他のクラス 土1学年の子でも良い 幼馴染でも○
- 遊び自体 自分の有利なルールでないと 遊べない
- 先生は 怒る人 注意をしてくる人で 敵だと思っている
- クラスの子と良く 喧嘩になったり トラブルになったりする
→もしかすると、勝ち負けへの拘りや 注意 叱責 などへ 非常にイライラしたり

ネガティブになりやすいかも？理由などを説明すること 何が起きているのか どのように振舞えば良いのか 自然に学ぶことが 苦手なのかもしれないと思って対応

- 集団で何かをすること自体が とても苦手 嫌い
→どれぐらいの人数で どんな内容ならできるかアセスメント
ポイントを絞って参加 量の調整 やり方の調整
- 長い時間人と一緒にいると、楽しいけど疲れてしまう

コミュニケーション・対人面

勝ち負けに必要以上に拘ってしまう

自分のルールで遊びをすすめてしまう 負けたらイライラが止まらない

注意や叱責に対して、自己否定されたと 必要以上にダメージを受けやすい

言葉の受け止め方に幅がない 「それしちゃダメ」→存在するなってこと？

言葉を辞儀通りに受け止めてしまう。例) 「死ぬ気で頑張れ」→死なないと

自然に学んでいくというよりは 教えて貰って理解していく

発達凸凹が隠れているかも？

感覚の事

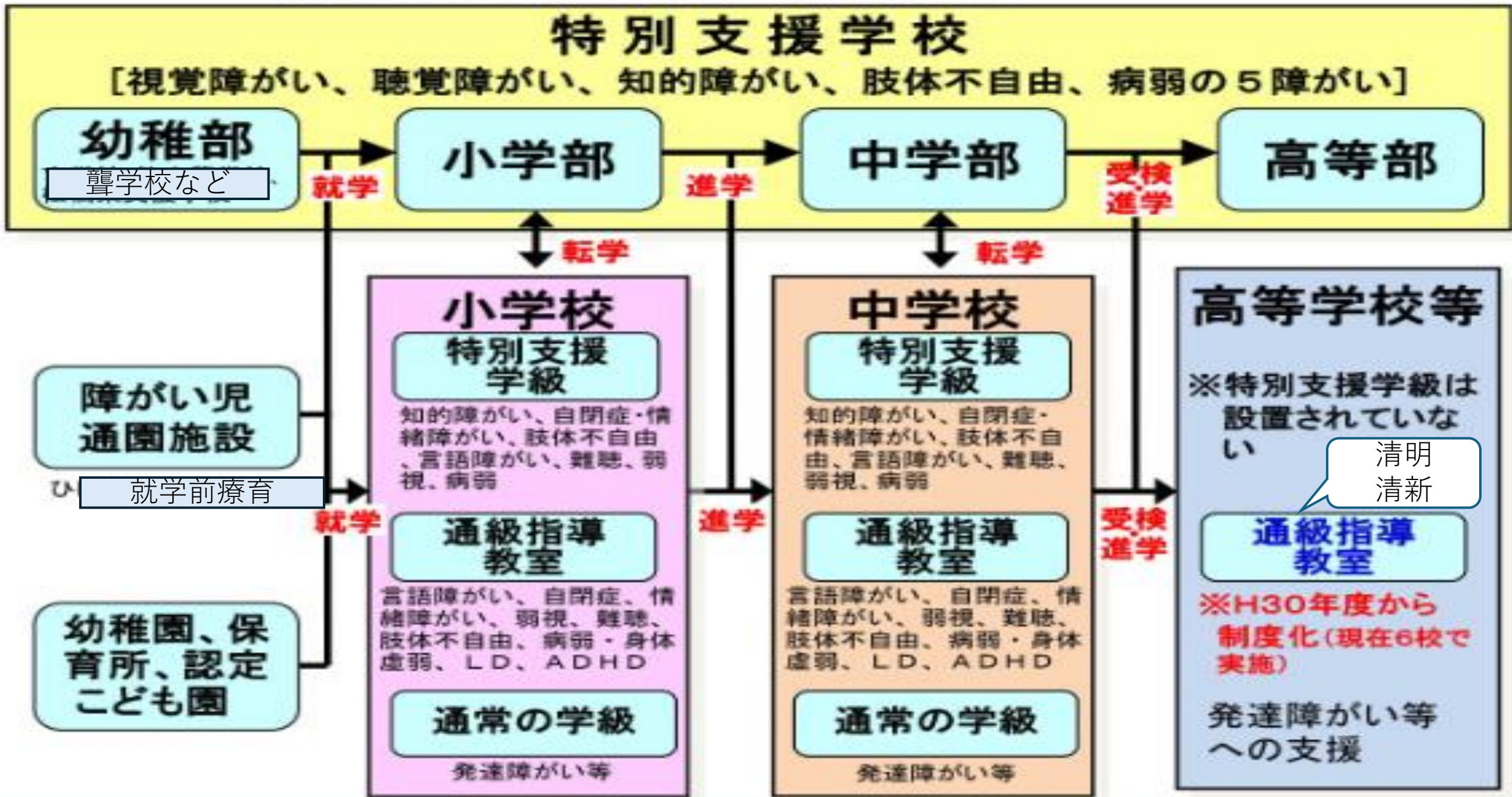
* これも 学校に行きたくない行けない理由の時があります。 **甘えではない**

理解した 対応が 必要 自分自身を支援できるようにするためにも必要です。

- ・ どうしても食べる事が難しい物がある
- ・ 人よりもまぶしく感じて 目を開けていることが辛い
- ・ 音がすべて同じ大きさを聞こえてしまったり、耳が痛くなるぐらいの音量で聞こえてしまうことがある。
- ・ 肌に触れるものへの感覚が過敏で 痛さや痒さなど感じやすい
このことで、すごく疲れやすかったり、イライラしたりすることもあります。

理解した 環境調整を！

《特別支援教育の構成図》



誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」(概要)

○小・中・高の不登校が約30万人に急増。90日以上の不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けられていない小・中学生が4.6万人に。

⇒不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

ことにより、誰一人取り残されない学びの保障を社会全体で実現するためのプランを、文部科学大臣の下、とりまとめ。

○今後、こども政策の司令塔であるこども家庭庁等とも連携しつつ、今すぐできる取組から、直ちに実行。また、文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」を、こども家庭庁の参画も得ながら、文部科学省に設置。進捗状況を管理しつつ取組を不断に改善。

主な取組

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

仮に不登校になったとしても、小・中・高等を通じて、学びたいと思った時に多様な学びにつながることができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を整備。

○不登校特例校の設置促進（早期に全ての都道府県・指定都市に、将来的には分教室型も含め全国300校設置を目指し、設置事例や支援内容等を全国に提示。「不登校特例校」の名称について、関係者に意見を募り、より子供たちの目線に立ったものへ改称）。

○校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）の設置促進（落ち着いた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置）

○教育支援センターの機能強化（業務委託等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化。オンラインによる広域支援。メタバースの活用について、実践事例を踏まえ研究）

○高等学校等における柔軟で質の高い学びの保障（不登校の生徒も学びを続けて卒業することができるような学び方を可能に）

○多様な学びの場、居場所の確保（こども家庭庁とも連携。学校・教育委員会等とNPO・フリースクールの連携強化。夜間中学や、公民館・図書館等も活用。自宅等での学習を成績に反映）

実効性を高める取組

○エビデンスに基づきケースに応じた対応を可能にするための調査の実施（一人一人の児童生徒が不登校となった要因や、学びの状況等を分析・把握）

○学校における働き方改革の推進 ○文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の設置

2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する

不登校になる前に、「チーム学校」による支援を実施するため1人1台端末を活用し、小さなSOSに早期に気付くことができるようにするとともに、不登校の保護者も支援。

- 1人1台端末を活用し、心や体調の変化の早期発見を推進（健康観察にICT活用）
- 「チーム学校」による早期支援（教師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等が専門性を発揮して連携。こども家庭庁とも連携しつつ、福祉部局と教育委員会の連携を強化）
- 一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援（相談窓口整備。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが保護者を支援）

3. 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

学校の風土と欠席日数には関連を示すデータあり。学校の風土を「見える化」して、関係者が共通認識を持って取り組めるようにし学校を安心して学べる場所に。

- 学校の風土を「見える化」（風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ提示）
- 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善（子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現）
- いじめ等の問題行動に対する毅然とした対応の徹底
- 児童生徒が主体的に参画した校則等の見直しの推進
- 快適で温かみのある学校環境整備
- 学校を、障害や国籍言語等の違いに関わらず、共生社会を学ぶ場に

事業名

不登校児童別室対応支援員配置事業

事業の経過・背景・課題

宇治市における不登校児童生徒数は、増加傾向にあり、平成24年度を境に9年連続増加し、令和4年度は過去最多となったことや、小学校の別室において、常駐できる教職員が少ないことなどに課題がある。

また、別室に通う児童生徒にとっても、担当者が日々変わることは不安につながり、別室に通いにくい状況を作り出すことが懸念される。

《令和4年度宇治市の不登校状況》

小学校：130人（男子：65人、女子：65人）

関係者 図

教育支援課 教育委員会
ふれあい教室 1対1 週1
複数 週
相談 スタールカウンセラー

学校
・担任の先生・教育相談部・特別支援 Co
・別室登校
・いきいき支援
・通級指導教室
・SC 相談
・SSM 相談

サポート JOYO・城陽支援学校
○本人・保護者相談
○病弱通級

フリースクール
・学習
・居場所
・SC 相談

本人

訪問看護
・医療費負担 200 円
週に1回～3回 訪問して
様子を見てくれたり活動をしたたり
してくれる

医療
・病院

放課後等デイサービス（障害福祉）
・相談
・放課後の居場所
・移動の支援

就学前療育

保健

民間の相談室
・居場所
・相談
・SC

今後とも連携を宜しくお願い致します。
ご清聴ありがとうございました

